

Lac 乳のレメディ

Lacs in Homeopathy Farokh J.Master 著より

ホメオパシーに Lac(乳)のレメディを導入した功績者は、サミュエル・スワン博士です。

18 世紀初頭、彼はさまざまな Lac のレメディを初めて紹介しましたが、当時の同僚の医師から多くの反対意見が出ました。

また、彼は多くの Nosodes(ノゾーズ)を取り入れ、ノゾーズの父としても知られています。

1905 年、ジェームズ・タイラー・ケントは、彼自身の最初のマテリアメディカを発表しました。

その中の Lac-caninum の章で Lac のレメディに関する以下のような記述を残しています。

「乳は動物の子供にとっての食物であり、それゆえ根本的な体質の形成に関与している。」

<Lac のレメディのテーマ>

1. 虐待

哺乳類の場合、自然環境から引き離され人間社会に適応させるために訓練され、飼いならされる過程でひどい扱いを受けるため、多くの Lac のレメディに、「虐待」というテーマが浮かび上がってくる。

2. 人間関係と離別

- ・短期、長期の母親との離別、あるいは困難な子供時代。
- ・離婚、海外勤務、不和などによるパートナーとの離別。
- ・転校、転居による友人との離別。

3. 授乳期の母親の情緒不安

4. 友人

家族に見放されている、養育してもらえない、無視されているなどの理由で家を離れ、グループの仲間になるため、グループにとって欠くべからざるメンバーとしてみなされたいと思う。

5. 落下

特に、Lac-c.

6. 強い性衝動と怒り。それに対する罪悪感や良心の呵責。